

《担当者名》礒部太一（心）

【概要】

科学技術社会論の概要を講義形式だけではなく、映像資料等を参照しながら、ワークショップ、グループワーク、発表等を実施し能動的に学ぶ。日常生活において身近な科学技術と社会の関係、科学技術への市民参加（リスクコミュニケーション、科学技術への関与の仕方）、科学技術コミュニケーション（科学技術への信頼の危機、サイエンスカフェ）、科学の不確実性（科学の完全無欠という誤解、科学と社会の利害関係・価値観との絡み合い）などの概要を学際的な観点から幅広く取り扱う。

【学修目標】

科学技術社会論の基本的な概要や問題事例を理解し身につける。

科学技術・医学と社会の関係について、自分の日常生活と関連付けながら学ぶ。

グループワークと発表等の参加型の学習を通じて、議論するコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|----------------|--|------|
| 1 | ガイダンス | 授業全体の予定や授業の進め方等の説明 | 礒部太一 |
| 2 | 科学技術社会論の概要 | 科学技術と社会の関係を概説できる。 | 礒部太一 |
| 3 | 科学技術社会論の概要 | 科学技術と社会の関係を概説できる。 | 礒部太一 |
| 4 | 科学技術社会論の概要 | 科学技術と社会の関係を巡る 歴史的背景を概説できる。 | 礒部太一 |
| 5 | 科学技術社会論の概要 | 科学技術と社会の新しい関係を概説できる。 | 礒部太一 |
| 6 | 科学技術への市民参加 | リスクコミュニケーション、科学技術への関与の仕方を概説できる。 | 礒部太一 |
| 7 | 科学技術への市民参加 | リスクコミュニケーション、科学技術への関与の仕方を概説できる。 | 礒部太一 |
| 8 | 科学技術コミュニケーション | 科学技術への信頼の危機、サイエンスカフェのあり方を考察する。 | 礒部太一 |
| 9 | 科学技術コミュニケーション | 科学技術への信頼の危機、サイエンスカフェのあり方を考察する。 | 礒部太一 |
| 10 | 科学の不確実性 | 科学の完全無欠という誤解、科学と社会の利害関係・価値観との絡み合いを概説できる。 | 礒部太一 |
| 11 | 科学技術へのエスノグラフィー | 身近な科学技術についての参与観察を実施する。 | 礒部太一 |
| 12 | グループワークと発表 | 「科学技術と社会」をテーマにしたグループワークと発表を実施する。 | 礒部太一 |
| 13 | グループワークと発表 | 「科学技術と社会」をテーマにしたグループワークと発表を実施する。 | 礒部太一 |
| 14 | 期末レポートについて | レポートの書き方、期末レポート課題の内容を理解する。 | 礒部太一 |
| 15 | まとめ | 授業全体のまとめ | 礒部太一 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末レポート（100%）

【教科書】

戸田山 和久（2022）『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版

【参考書】

平川 秀幸（2010）『科学は誰のものか：社会の側から問い直す』日本放送出版協会

山崎 亮 (2012) 『コミュニティデザインの時代 - 自分たちで「まち」をつくる』中央公論新社
神里 彩子・武藤 香織 編 (2015) 『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』東京大学出版会
八木絵香 (2009) 『対話の場をデザインする 科学技術と社会のあいだをつなぐということ (大阪大学新世紀レクチャー)』大阪
大学出版会

【備考】

この授業は歯学部との合同授業である。
状況次第では、オンデマンドでの授業実施となる可能性がある。

【学修の準備】

- ・ 授業の前後において、教科書の該当箇所を一読する (80分)。
- ・ 授業内で出した課題について、次回の授業の際までに行っておく (50分)。
- ・ 授業内で実施するグループワークと発表に積極的に参加する。一部、授業外で宿題として実施する (30分)。

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP1) 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。
(DP3) 保健・医療・福祉の各分野の役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚とそれを実践するための専門性と協調性を身につけている。
(DP4) 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。
(DP5) 多様な文化や価値観を尊重し、地域的・国際的な視野で活躍できる能力を身につけている。
(DP6) 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。